

四国企業 プロフィール

フラスコ（愛媛県西条市）は鋼など200種類を超える材質を削る技術を生かした精密機械部品の製造をてがける。インドに現地法人も設けており、同国の製造業振興策を追い風に日系企業との取引拡大を目指す。切削技術を生かし、加工が難しいチタンから自社ブランドで杯を製作するなど消費者との接点づくりに取り組む。

同社は主に半導体・真空装置関連フランジなど産業用途での部品加工に強みをもつ。タンクステンやチタンなどの難削材

四 精密機械部品、インド開拓

国

を精密加工ができる。5ヶ国に進出で部品の現地複合マシンなど高度な地調達が増えており、期待が持てる」と話す。人も手による繊細な調整も可能な体制を整える。

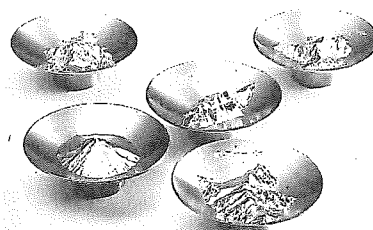
2017年にはインドのケララ州に工場を開拓するなど、インド市場の導入手を伸ばしている。当初は独自で補助金を出している。新型コロナウィルスの感染がこじれた背景もあり進出が広がったことで休止状態だった日系メーカーにとつたが、フラスコの藤原弘一社長は「コロナ以降、日系メーカーの相次も高まっているという。」

フラスコは精密機械部品の製造などを手がける。愛媛県では24年からインドに、中村時広知事や県商工会議所連合会などの経済団体、県内企業も参加する経済交流ミッションを派遣している。フラスコも2回参加した。

現在、同社のインド現地法人の売上高のうち日系企業との取引分は2割ほどだが、26年にも8割まで高める。電気自動車（EV）の製造装置や工作機械などへの部品供給を想定する。現地法人は



フラスコは精密機械部品の製造などを手がける



切削技術を生かして石鎚山などをあしらった杯を製作した

フラスコ（愛媛県西条市）

国内ではチタン製「杯」展開

現在、20人のスタッフが籍を置いているが、県の人材マッチングを活用して2〜4人の増員も検討する。

BtoB（企業間取引）が中心だったことから、消費者との接点づくりに取り組む。難切削加工を生かしたライフスタイ用品などを展開する自社商品ブランドを立ち上げており、加工の難しいチタン製の杯などを展開している。置きや高知の「べく杯」といった製品もつくり、杯は24年から製作に取り組んでおり、サイズは定だ。（安部将隆）

25年には西条市のふるさと納税返礼品に採用された。2月中旬からはインターネットで一般販売も始める。価格は1杯3万5000円。将来的には山の種類を増やすほか、ショットグラス、はし置きや高知の「べく杯」といった製品もつくり、杯は24年から製作に取り組んでおり、サイズは定だ。（安部将隆）

会社概要	
所在地	愛媛県西条市
創業	1973年
売上高	6億5000万円（2025年9月期）
従業員	35人
事業内容	精密機械部品製造など

チタンはステンレスに比べて約45%軽い。さびにくく、酸やアルカリにも強い。化学反応がほとんど起きないため、金属臭や飲み物への成分移行も防げる。人体に安全でアレルギー反応を起こしにくいいため、安心して飲料を楽しむという。

25年には西条市のふるさと納税返礼品に採用された。2月中旬からはインターネットで一般販売も始める。価格は1杯3万5000円。将来的には山の種類を増やすほか、ショットグラス、はし置きや高知の「べく杯」といった製品もつくり、杯は24年から製作に取り組んでおり、サイズは定だ。（安部将隆）

配達・購読のお問い合わせ
0120-211-4946
7時〜21時

高松徳島
知山島
0889-0887